PARC 自由学校 2023

PACIFIC ASIA RESOURCE CENTER

FREEDOM SCHOOL 2023

発想を変える　私たちが変わる　世界を変える

PARC
自由学校
2023
PACIFIC ASIA
RESOURCE CENTER
FREEDOM SCHOOL 2023
講座一覧

連続講座

ひとつのテーマについて複数回にわたって学んでいきます。

オンライン連続講座

zoomを利用したオンラインの講座です。講座によって、フィールドワーク・オプションも選択できます。

01 フィアレス・シティへの道―地域主権と公共の再生をめざして

02 【PARC50周年記念講座】
「じゃなかしゃば」からポスト3・11世界へ―福島からの新たな一歩

03 学校給食という希望

ハイブリッド読書ゼミ

少人数・参加型のオンラインゼミです。教室参加・オンライン参加を自由に選択いただけます。

04 新自由主義と闘った知の巨人、宇沢弘文
―「人間のための経済学」はどう構想されたのか

05 刊行100年『アイヌ神謡集』を通じてアイヌ語と知里幸恵について学ぶ

オンライン英語ゼミ

少人数・参加型のオンラインゼミです。

06 ケイトの“What's Happening In The World!?”

07 武藤一羊の英文精読

08 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

対面連続講座

教室やフィールドに集まり、五感を通して学ぶ、対面型講座です。

09 映像とワークショップで考えるサステナビリティ
―スマホ・水・プラごみ・有機農業

10 畑で実践!!〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

11 ビオダンサ― 脈動と循環の中で

12 表現することは生きること

13 鎌田慧・ルポルタージュの現場から

特別企画

- 【国内エクスポージャーツアー】
あるがままの自分が認められる場所「やまなみ工房」を訪問する旅
- 【PARC オンデマンド配信シリーズ】
写真家・大石芳野　顔と風景に刻まれた記憶と歴史

イラスト：生駒さちこ
デザイン：清水 肇（prigraphics）

オンライン連続講座

01 フィアレス・シティ（恐れぬ自治体）への道 ―地域主権と公共の再生をめざして

1980年代以降、新自由主義に基づく市場経済、規制緩和、自由貿易がさらに拡大し、その弊害としての格差や地域経済の衰退が世界各国で深刻になってきました。また、経済のグローバリゼーションの反作用として、極右勢力や権威主義的な政治も横行しています。こうした中、政府や大企業・投資家などがつくるルールの強制に抵抗し、住民の暮らしを守ろうとする自治体「フィアレス・シティ（恐れぬ自治体）」が生まれています。これらはいずれも公共の再生、地域主権、持続可能なまちづくりなどを共通の政策とし、また参加型予算など、直接民主主義的な要素を地方自治に積極的に取り入れるなどの特徴があります。この講座では世界の実践を学びつつ、日本での可能性を考え、運動のネットワークを広げることを目指します。

コーディネーター **内田聖子**（PARC共同代表）

貿易・デジタル分野を中心に調査研究・政策提言を行う。杉並区政にも関わる。編著に『自由貿易は私たちを幸せにするのか？』コモンズ2017／『コロナ危機と未来の選択―気候正義・格差是正・民主主義への10の提言』コモンズ 2021

6/16（金）
国家と大資本に抗う世界の自治体 ―公共の再生と地域主権を求めて

岸本聡子　杉並区長／公共政策研究者

新自由主義の波が世界各国、そして自治体にも襲いかかる中、住民の暮らしと命を守り、同時に気候危機などのグローバルな課題にも取り組む「フィアレス・シティ（恐れぬ自治体）」は世界に広がりつつあります。そのコンセプトと実践を共有した上で、「日本でも可能か？」と皆さんと議論したいと思います。

6/30（金）（予定）
気候危機に対して自治体ができること

講師調整中

まったなしの気候危機対策は、国が責任をもって取り組むことが不可欠ですが、住民の暮らしに最も近い自治体でできることも多くあります。まちづくりや地域経済、住民と行政の協働の中でどう実現するか。現職の自治体首長の方にお話しいただく予定です。

7/14（金）（予定）
学校給食の無償化・有機化の波 ―自治体が国を包囲する

講師調整中

義務教育は無償であることが憲法で定められているにも関わらず、日本ではまだ多くの自治体で給食費は保護者負担となっています。しかしこの数年で、特に東京23区で無償化の波が訪れ、また地方でも無償化する自治体が増えています。さらに地場産や有機の食材を使用する学校も増え、変革は進んでいます。無償化自治体の首長に登壇いただき、自治体から国を変える可能性を考えます。

7/28（金）
平和・人権・環境―未来を拓く自治体の闘い

阿部裕行　多摩市長

「脱原発」「核兵器廃絶」を宣言し、子ども・若者の権利と意見表明を大切にし、アイスランドとのジェンダー平等・平和・環境の国際交流を目指す多摩市からの報告です。

2023年6月～10月
金曜日19:00～21:00

●全9回　●開催形式：オンライン（zoom）
●受講料：16,000円〈U25割：5,000円〉

9/1（金）
ビッグ・テックに抵抗する自治体 ―データ・コモンズとデジタル主権

内田聖子　PARC共同代表

監視資本主義ともいわれる経済システムの中で、巨大IT企業は住民・市民に関する多くのデータを得て、ターゲット広告などを使い利益をあげるビジネスモデルを確立しました。こうした力に抵抗し、住民のプライバシーを守りつつ地域経済を活性化する新たな方向性が欧州を中心に模索されています。その実践をお話しします。

9/15（金）
米国ポートランドに学ぶ持続可能な住民主体のまちづくり

川勝健志　京都府立大学公共政策学部教授

“全米一住みたいまち”として知られるポートランドで脈々と受け継がれてきた住民自治の歴史と伝統、そして今日、ますます多様化しつつある価値の共有を形成していくプロセスをご紹介いたします。

9/29（金）
ジェンダード・イノベーションのまちづくり ―豊島区「としまF1会議」の事例から

萩原なつ子　独立行政法人国立女性教育会館理事長／日本NPOセンター代表理事／立教大学名誉教授

2014年に消滅可能性都市の指摘を受け、その後ジェンダード・イノベーションのまちづくりの成功例として評価を受けている豊島区の住民参画型の政策形成について考えます。

10/13（金）
住民主体のまちづくりの基盤となる国と地方の税財政制度―日本とスウェーデンの比較

伊集守直　横浜国立大学大学院国際社会科学研究院教授

自治体レベルで住民の生活保障やまちづくりを進めていくための財源調達の仕方や地域間格差是正のあり方について、国際比較の視点も交えて考えてみたいと思います。

10/27（金）
公共を育てるために20代・30代の政治家にも多様性を ―FIFTYS PROJECTの実践から

能條桃子　一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表理事／FIFTYS PROJECT代表

私は2022年夏からFIFTYS PROJECTという全国の20代・30代の女性、Xジェンダー、ノンバイナリーの候補を募集、支援するプロジェクトを立ち上げて仲間と一緒に進めています。ここまでの経緯と成果、課題のご報告を通じて、みなさんに新たな視点を提供できればと思っています。

オンライン連続講座

02

【PARC50周年記念講座】

「じゃなかしゃば」からポスト3・11世界へ —福島からの新たな一歩

1989年にPARCは国際民衆行事「ピープルズ・プラン21」を水俣で開催し、「二〇世紀はじめのスローガンは進歩だった。二〇世紀末の叫びは生存ということだ。つぎの世紀からのよびかけは希望である。」で始まる水俣宣言を採択した。水俣はボパール、チェルノブイリとともに、「災害」と片付けるにはあまりに不条理な産業による巨大な暴力から、市民が立ち上がる希望の符号であった。そして人びとがこの場で声を一つにして求めたものが今のようでない世の中のあり方、すなわち「オルタナティブ」な世界であった。集った民衆はこれを「じゃなかしゃば」と表現した。

PARCが50周年を迎える2023年、チェルノブイリはチョルノービリと呼び変えられ、その名とともに福島が並べられる現実がある。原発事故は産業被害であるが、「核」は途方もない時間軸を孕み、化石燃料にも増して人新世の大きな課題である。海から獲れる魚、土の育む米や野菜、そして〈いのち〉を守る「じゃなかしゃば」はいかに実現できるのか？

福島から考え、一歩を踏み出す場をここに設定する。

2023年5月～9月
月曜日 19:00～21:00

- 全6回＋PARC50周年記念フォーラム（9月開催予定）の参加券プレゼント！
- 開催形式：オンライン（zoom）
- 受講料：12,000円〈U25割：5,000円〉

※「ピープルズ・プラン21」については、関連の資料が以下のサイトにアーカイブされていますのでご参照ください。http://www.pp21archives.org/index.html
「水俣宣言」はこちら。https://www.jca.apc.org/ppsg/Doc/minamata.htm

特別オープン講座

5/29（月）
鼎談 水俣 ⇒ 福島：「生存」の叫びと「希望」の呼びかけ

アイリーン・美緒子・スミス
グリーン・アクション代表

鴫原宏一朗
Fridays For Future

司会 **中山智香子**
東京外国語大学教授／PARC理事

細川弘明
高木仁三郎市民科学基金理事／京都精華大学名誉教授／PARC元共同代表

戦後、水俣病をはじめとした公害の被害者たちは「生存の叫び」をあげて立ち上がり、産業による巨大な暴力にNOを突きつけた。にもかかわらず、「進歩」や「開発」を追求する動きは止まらず、21世紀に入り、日本は3・11から原発事故を経験し、そして気候危機に直面している。すぐには回復することのできない環境被害を次世代に背負わせる結果となった。さらにロシアのウクライナ侵攻により、〈核〉が今なお世界の決定的イシューであると露呈している。そのような中、私たちはどのような「じゃなかしゃば」を創出し、次の世代に希望をつなぐことができるだろうか。「水俣宣言」が見出した希望の呼びかけを改めて読み返し、新たな一歩を踏み出すために、３人の登壇者と共に語り合いたい。

※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般参加者との合同受講となります。

6/26（月）
「核の平和利用」という建前—社会運動の視点から読む核開発の歴史と構造

武藤一羊
ピープルズ・プラン研究所運営委員

1953年のアイゼンハワー演説以降、「核の平和利用」と「不拡散」という二枚看板の建前のもとで、原発は堂々と世界各地で建てられてきた。その一方で、核の軍事開発は摺りガラスの向こうへと追いやられながらも、とどまるところを知らない。結果として、今やいつになく多くの核保有国が世界に点在している事態に直面している。どうしてこうなったのか？ 社会運動の視点から核開発の歴史と構造を読み解く。

7/10（月）
被ばくの事実と向き合って12年

木村真三
獨協医科大学国際疫学研究室福島分室長・准教授

被災地に入って被ばく量の調査をするために職を辞したのが12年前。絶望も楽観もすることなく、ただただ被ばくの事実と向き合い、福島の住民と共に暮らし、一緒に泣き笑いするなかで考えたこととは。そこから見える福島の「これから」とは。

7/24（月）
原発事故後の心を診る

蟻塚亮二
メンタルクリニックなごみ院長

聴き手 **栗本知子**
PARC自由学校

2019年に行われたある調査では対象とされた浪江町津島地区の住民の約半数（48.5%）はPTSD（心的外傷後ストレス）を発症していたという。原発事故によってそれまでの暮らしを破壊された人々の負担は、金銭的な補償だけでぬぐい去ることのできるものではない。誰も置き去りにしない「じゃなかしゃば」への歩みとは。

8/7（月）
私のあとに続くいのちのために

片岡輝美 放射能から子どものいのちを守る会・会津／会津放射能情報センター代表／子ども脱被ばく裁判の会共同代表

原発の電力にあやかって生活していた私たちは自然を汚し、子どもたちの未来を危うくしてしまった。福島の今を共有しつつ、私たちのあとに続く子どもたちのために為すべきことを考える。

9/25（月）
【ワークショップと交流会】
みんなでつくる「じゃなかしゃば」

これまでの回を振り返りながら、みんなで「いまのようでない世の中＝じゃなかしゃば」を構想し実現するためのロードマップを考えます。未来への一歩を一緒に踏み出すためのワークショップと交流会を開催します。

1989・3・7毎日新聞

世界の農民が英知結集

手作り国際交流を

今夏 置賜地方会場に開催

協賛団体など募集

PARC50周年：人びとが主役となる参加民主主義を目指して

アジア太平洋資料センター（PARC）はベトナム戦争に反対する日本の市民運動「ベトナムに平和を！市民連合（ベ平連）」から生まれました。基盤となったのはベトナム戦争に加担することを拒否し、脱走する米兵を第三国に送り出す国際連帯運動でした。このベトナム反戦運動を担った人びとの中から有志が集まり、政府や財界がマスメディアを通じて発信するような日本の経済力を喧伝するだけの情報発信とは異なる「もう一つの日本」を世界に伝えるための英文季刊雑誌『AMPO』が1969年に創刊されました。その雑誌を通じて重ねられた国際交流の中であらゆる人びとが集う「広場」であり、国内外の運動をつなぐ「通路」としてPARCは設立されました。

そのPARCが呼びかけ、広範な市民による連合で実現したのが1989年の国際民衆行事「ピープルズ・プラン21」でした。市民がインターネットも電子メールも活用できない時代にも関わらず、世界数十ヵ国から400名を超える参加者が日本からの1万名を超える参加者とともに集い、世界の人びとが共に生きることのできる世界を目指すための希望の連合を紡ぎ「水俣宣言」を採択しました。

この時に希望を象徴する合言葉として人びとを結びつけたのが「じゃなかしゃば」という単語でした。「いまのようでない世界」を意味するこの言葉は、PARCがその後も日本や世界の経済・政治のあり方を問いながら、世界の民衆と連帯し、人びとが主役となる越境参加民主主義・民衆自治を追求するための指針となりました。

1988・10・5毎日新聞

アジアと草の根交流

「ピープルズ・プラン21世紀」 来夏、全国で国際会議

PARCは今年で50周年を迎えますが、市民社会として非戦の立場を貫き、民衆と連帯し、「じゃなかしゃば」を目指して活動を続けます。

本年のPARC自由学校では50周年記念講座を開講するほか、「ピープルズ・プラン21」に代表される国内外の民衆行事のアーカイブの公開、福島の民衆と連帯した「ふくしま環境フォーラム（2023年4月8日）」の開催などの取り組みを進めております。さらに、9月には50周年を記念したシンポジウムを東京都内とオンラインのハイブリッドで開催を予定しております。こちらはPARC自由学校50周年記念講座「『じゃなかしゃば』」からポスト3・11世界へ」にお申し込みいただいた皆様は無料でご招待いたします。

50周年記念ウェブサイトおよび基金のご案内

PARC50周年に関連した行事のご案内等はPARC公式ウェブサイトの他、下記のウェブサイトでもご案内いたします。また、50周年記念基金へのご寄付も同ウェブサイトから受け付けております。ご参加・ご協力をお願いします。

https://www.parc50th.parc-jp.org/

オンライン連続講座

03 学校給食という希望

近年、学校給食をめぐる取り組みが全国各地で盛んです。食農教育、地産地消、まちづくり、持続可能な農業の推進など、多様な観点から給食の社会的役割に期待が寄せられています。同時に、子どもの「食への権利」を保障するセーフティネットとしての役割も改めて見直され、給食費の無償化を求める声も各地で高まっています。食と農をつなぐ身近な結び目である給食は、子どもの食と健康を支えるだけではなく、地域の農業を守り、地域を動かす原動力にもなるのです。学校給食の可能性について、日本と海外の事例を踏まえながら考えます。

受講料●オンライン講義（全6回）のみ：14,000円〈U25割：5,000円〉
●オンライン講義（全6回）＋フィールドワーク（1回）：
18,000円〈U25割：5,000円〉
●オンライン講義（全6回）＋フィールドワーク（2回）：
22,000円〈U25割：5,000円〉

※フィールドワークのみの参加はできません

コーディネーター **小口広太**
千葉商科大学教員／PARC理事

1983年、長野県塩尻市生まれ。専門は地域社会学、食と農の社会学。有機農業や都市農業の動向に着目し、フィールドワークに取り組んでいる。

オンライン講義 2023年6月～10月 / 木曜日19:00～21:00

●全6回 ●開催形式：オンライン（zoom） ●受講料：14,000円

6/22（木）
学校給食の危機と可能性

小口広太 千葉商科大学教員／PARC理事

学校給食の現状と課題を踏まえ、無償化、地場産、有機化など様々な論点についてお話し、本講座の内容を紹介します。昨年、PARCが制作した『希望の給食』もみなさんと一緒に鑑賞し、学校給食の可能性を考えましょう。

7/13（木） 子どもの食格差と給食費無償

鳫 咲子 跡見学園女子大学マネジメント学部教授

食材費高騰を受けて、学校給食に対する自治体の対応は、値上げと無償化に二分されています。子育て家庭に大きな格差がある中、この事態をどのように考えるべきでしょうか。

8/31（木） 韓国の親環境給食と無償化

イ・ビンパ ファソン市フード統合支援センター前センター長

カン・ネヨン
慶熙大學フマニタスカレッジ講師
／地域ファシリテーター

白石 孝 PARC共同代表

隣国・韓国では、有機食材を用いた給食を無償で実施する「親環境無償給食」が広まっています。その発端は、普通の市民が始めた運動でした。運動の当事者にお話を伺います。

9/14（木）
オーガニック給食をどう広げるか：フランスの経験から

本田恵久 NPO法人こどもと農がつながる給食だんだん代表理事

フランスで進むオーガニック給食。その周りには子どもたちや職員の食育、農業のあり方、環境、地元との繋がりなどが広がっていきます。オーガニック給食の持つポテンシャルをお伝えします。

9/21（木）
みんなでつくる学校給食とまちづくり：亀岡オーガニックアクションの挑戦

田村典江 一般社団法人FEAST代表理事

学校給食は食と農からまちづくりを考える際のひとつの切り口です。ローカル・フードポリシーの考え方と、京都府亀岡市の亀岡オーガニックアクションの挑戦についてお話しします。

10/26（木） 学校給食のこれから

藤原辰史 京都大学人文科学研究所准教授

給食は、時代や政治に左右されながらも、「未来を構想する魅力的な舞台」であり続けてきました。現代社会の様々な課題に対して給食が持つ可能性についてお話しいただきます。

＼オプションで選べる！／

フィールドワーク 2023年7月、11月

●開催形式：対面・フィールド ●全2回 ●参加費：各回4,000円

7/19（水）日中（10:00頃-12:00頃で調整中）
【フィールドワーク：東京都武蔵野市・武蔵野市立学校給食桜堤調理場】
安心・安全、こだわりの給食の現場を訪ねる

北原浩平 武蔵野市給食・食育振興財団理事長

都市部でありながら、長年こだわりの給食で知られる東京都武蔵野市。生産者との顔の見える関係にこだわった食材選びと、加工食品を排した手作り調理。民間委託ではない、市出資の財団のもとで、この味を継承しています。その調理場を見学、お話を伺った後、皆で給食をいただきます！

11/11（土）日中
【フィールドワーク：東京都瑞穂町・近藤ファーム】
地産地消と食育を軸にした農業経営の現場を訪ねる

近藤 剛 近藤ファーム代表

学校給食への野菜供給のことや食育についての当園の取組みをご紹介します。また東京で農業をすることの課題や可能性についてもお話したいと思います。

ハイブリッド読書ゼミ

04 新自由主義と闘った知の巨人、宇沢弘文 —「人間のための経済学」はどう構想されたのか

社会経済問題を語る際によく出る、「宇沢さんだったら——」という会話。「使命感の塊の人」「孤高の大経済学者」「ローマ法王が頼りにした社会思想家」。さまざまに評価される宇沢弘文の思想と理論は、今でも現代の社会問題を考えるうえでの最前線といえます。しかし現在の経済社会・経済学は、宇沢が批判した新自由主義＝エゴイズム経済が蔓延する一方です。宇沢の思想を学びながら、私たちはそれをどう捉え発展させることが可能なのか、具体的なテーマごとに考えていきます。

2023年6月～11月
水曜日19:00～21:00

●全8回　●教室参加定員：20名
●開催形式：対面（PARC自由学校教室）またはオンライン（zoom）の選択制
※受講方法を適宜切り替えていただくことも可能です。　※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。
●受講料：32,000円〈U25割：5,000円（先着2名）〉
●主要なテキスト：宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書 2000
佐々木実『資本主義と闘った男 宇沢弘文と経済学の世界』講談社 2019

ナビゲーター 佐々木実　ジャーナリスト

大阪大学経済学部を卒業後、1991年に日本経済新聞社に入社。95年に退社し、フリーランスのジャーナリストとなる。2013年に出版した『市場と権力「改革」に憑かれた経済学者の肖像』（現・講談社文庫）で大宅壮一ノンフィクション賞と新潮ドキュメント賞を受賞。宇沢弘文に師事して宇沢主宰の社会的共通資本研究会に参加、2019年に宇沢弘文の評伝『資本主義と闘った男 宇沢弘文と経済学の世界』（講談社）を出版して城山三郎賞と石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞した。近著に『今を生きる思想 宇沢弘文 新たなる資本主義の道を求めて』講談社現代新書 2022

6/21（水）
宇沢弘文を知る①数学から経済学そしてアメリカへ —その思想の原点と軌跡

佐々木実　ジャーナリスト

「日本人でもっともノーベル経済学賞に近づいた経済学者」と評されながら、多くの謎を残したまま世を去った宇沢。宇沢の思想の原点を人生の歩みを追いながらひも解く。

【参考文献】佐々木実『宇沢弘文　新たなる資本主義の道を求めて』講談社 2019

7/5（水）
宇沢弘文を知る②人間のための経済を取り戻す —新自由主義との決別と帰国

間宮陽介　京都大学名誉教授

新自由主義を糾弾しアメリカから帰国した宇沢は最先端数理経済学者から社会的共通資本の研究へとのめり込む。宇沢はどう変わったのか？

【参考文献】宇沢弘文『近代経済学の転換』岩波書店 1986

7/19（水）
自然環境はなぜ市場原理に委ねてはいけないのか？ —宇沢コモンズ論再考

関　良基　拓殖大学教授

宇沢は森林のような自然環境を市場原理に委ねてはならない社会的共通資本と考えた。世界の森林は私有化ないし国有化されているが、宇沢は「私有vs公有」の対立を乗り越える論理を提示していた。

【参考文献】宇沢弘文『社会的共通資本としての森』東京大学出版会 2015

8/2（水）
経済成長最優先の陰で放置された公害 —公害被害者に経済学はどう向き合うか

井上ゆかり　熊本学園大学水俣学研究センター

帰国後宇沢が目撃し衝撃を受けた、自動車公害、水俣病。そして水俣での原田正純との出会い。経済成長の陰で増大する社会矛盾に、宇沢はどう取り組んだのか。

【参考文献】宇沢弘文『経済と人間の旅』日本経済新聞出版社 2014

9/20（水）
コモンズ論の系譜から読み解く社会的共通資本 —何がこれからの課題なのか

茂木愛一郎　前 立命館アジア太平洋大学講師

晩年宇沢は、社会的共通資本概念は「コモンズ」でもあると言うようになった。コモンズ論が探求してきたコモンズと社会的共通資本を比較し、何が共通した中核であり何がこれからの課題であるかを考える。

【参考文献】宇沢弘文『宇沢弘文の経済学—社会的共通資本の論理』日本経済新聞出版社 2015

10/4（水）
宇沢弘文と「成田」 —空港問題への関わりから「農の営み」の発見へ

安藤丈将　武蔵大学社会学部教授

1990年代初め、宇沢は成田空港問題に関わる。機動隊に守られる「要塞」の「荒廃」の傍らで、農民たちの地域再生の活動を知る。宇沢がそこで発見した「農の営み」について考える。

【参考文献】宇沢弘文『「成田」とは何か—戦後日本の悲劇』岩波新書 1992

10/18（水）
輝ける都市から生活のための都市へ —ル・コルビジェの都市論をなぜ宇沢は批判したのか

石川 幹子　中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室教授／東京大学名誉教授

工学的に整った都市ははたして住民のためのものなのか？ シャッター街の再生は？ 住民にとっていきいきと生活できる都市の条件とは何かを考える。

【参考映画】マット・ティルナー監督『ジェイン・ジェイコブズ　ニューヨーク都市計画革命』2016

11/8（水）
「心」を中心とした経済学とは何か？ 宇沢の探求した経済学・思想を継承・発展させる—医療の現場から

占部まり　医師／宇沢国際学館代表取締役／日本メメント・モリ協会代表理事

宇沢国際学館の代表として宇沢の思想を次世代につなぐ活動をする占部氏の報告を受け、宇沢の目指した経済思想とは何か、その現況とこれからを考える。

【参考文献】宇沢弘文『人間の経済』新潮新書 2017

ハイブリッド読書ゼミ

05 刊行100年『アイヌ神謡集』を通じて アイヌ語と知里幸恵について学ぶ

2022年は知里幸恵の没後100年、2023年は生誕120年を記念する年であり、彼女がアイヌ語の伝承を自ら書きとめ、日本語にも訳した『アイヌ神謡集』が、郷土研究社から刊行されて100年に当たります。2003年の知里幸恵生誕100年記念の際に様々な書籍等が刊行され、読者が『アイヌ神謡集』にアクセスしやすい状況が生まれてきました。本講座では、『アイヌ神謡集』から毎回一話を選び、その一部分をとりあげてアイヌ語で読み解きます。それぞれの物語に表現されたアイヌ「社会」のあり方や物語がもつ意味について考え、議論します。アイヌ語の基礎知識や、アイヌ文化や口承の物語の基礎知識は、一から丁寧に解説をします。同時に、知里幸恵の生涯と人となり、おばの金成マツや弟の知里真志保を通じて見えてくる周囲の伝承者の姿にも着目していきたいと考えています。

また夏にアイヌ語とアイヌ文化の伝承の中心の一つである平取町二風谷を訪問する合宿を希望制で実施することを考えています。

2023年6月～12月
金曜日19:00～21:00

●全10回　●定員：20名
●開催形式：対面（PARC自由学校教室）またはオンライン（zoom）の選択制
※受講方法を適宜切り替えていただくことも可能です。　※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。
●受講料：：42,000円〈U25割：5,000円（先着2名）〉

講師＆コーディネーター 藤田　護
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部専任講師

ラテンアメリカのアンデス高地の先住民をめぐる研究をしていて、そこで先住民の言葉であるケチュア語やアイマラ語を学ぶ過程で、日本でもアイヌ語を学び、アイヌ語を現代の日常に回復しようとする動きに関わるようになりました。PARCでも以前にアイマラ語の講座を担当したことがあり、その後ケチュア語の神話を読むサークル活動として現在まで続いています。

6/9（金）
『アイヌ神謡集』への導入

6/23（金）
第1話 シマフクロウのカムイの物語を読む（1）

7/7（金）
第1話 シマフクロウのカムイの物語を読む（2）

7/21（金）
第2話 狐のカムイの物語を読む

10/6（金）
『アイヌ神謡集』刊行100周年を迎えて
ゲスト講師 木原仁美　知里幸恵 銀のしずく記念館 館長

10/20（金）
第6話 小さなオオカミのカムイの物語を読む

11/10（金）
『アイヌ神謡集』を読むには
ゲスト講師 中川　裕　千葉大学名誉教授

11/24（金）
第11話 小さなオキキリムイのカムイの物語を読む

12/8（金） 私にとってのアイヌ
ゲスト講師 関根摩耶

12/22（金）
第13話 沼貝の物語を読む

オンライン英語ゼミ

06 ケイトの“What's Happening In The World!?”

ニュース記事や映像など、様々な英語コンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、英語で議論していきます。インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、ご自身も日本の自然や文化を愛するエコロジストのケイトさんを講師に、英語での表現を楽しく、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイ等を通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。

2023年6月～12月　土曜日 15:00～17:00

●全10回　●開催形式：オンライン（zoom）
●定員：15名　●受講料：32,000円〈U25割：5,000円（先着2名）〉

講師　ケイトリン・ストロネル
NPO法人原子力資料情報室スタッフ

オーストラリア出身。宮古島在住。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インド・ネールー大学で博士号を獲得。神主、環境運動家など多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして脱原発の世界を目指している。

こんな人におすすめ！
●環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようになりたい方　●日本の社会・文化について英語で説明できるようになりたい方

日程				
	第1回：6/10	第4回：7/22	第7回：10/21	第10回：12/9
	第2回：6/24	第5回：8/5	第8回：11/11	
	第3回：7/8	第6回：9/30	第9回：11/25	

オンライン英語ゼミ

07 武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込む講座です。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年はダグラス・ラミスさんの新著『War Is Hell: Studies in the Right of Legitimate Violence』を読みます。

2023年6月～2024年2月
原則として隔週水曜日 19:00～21:00

●全15回　●開催形式：オンライン（zoom）　●定員：15名
●受講料：46,000円〈U25割：5,000円（先着2名）〉

【テキスト】 Charles Douglas Lummis, "War Is Hell: Studies in the Right of Legitimate Violence", Rowman & Littlefield, 2023（チャールズ・ダグラス・ラミス『戦争とは地獄である：合法的暴力の権利についての研究』）

日程

第1回：2023/6/14	第4回：7/26	第7回：9/27	第10回：11/15	第13回：2024/1/10
第2回：6/28	第5回：8/30	第8回：10/11	第11回：11/29	第14回：1/24
第3回：7/12	第6回：9/13	第9回：11/1	第12回：12/13	第15回：2/7

講師　武藤一羊
ピープルズ・プラン研究所運営委員

1931年生まれ。「ベトナムに平和を！市民連合」での活動を経て、1969年に英文雑誌『AMPO』の創設メンバーとして日本の情勢を世界の知識人に発信する。1973年鶴見良行、北沢洋子などとともに「アジア太平洋資料センター（PARC）」を設立、1996年まで代表を務める。1998年「ピープルズ・プラン研究所」を設立。社会評論家としてノーム・チョムスキーなどの知識人と国際的な親交をもつ。1983-2000年、ニューヨーク州立大で期間教員を務める。

講師からのメッセージ：
ダグラス・ラミス、と言えば、ああ、あのラミスさん、と親しみを込めて口にする人も多いはずだ。憲法について、沖縄について、そして戦争、民主主義について、優しい口調で語り続け、沖縄では辺野古の座り込みに参加し続けている平和運動家、ラミス。政治学者であるそのラミスさんが、本格的な戦争論『戦争とは地獄である』を書いた。ふつうの人間がいかにして殺人者に変えられていくのか、生き残った兵士がどんなPTSDに苦しむのか。ラミスはハンナ・アレントとガンジーの権力論を検討しつつ「合法的暴力」廃絶の道を提起する。戦争気運の高まるこの日本で、今読まれるべき本だと思う。

こんな人におすすめ！
●一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方　●グローバル化した資本主義の先の未来について考察・議論してみたい方

オンライン英語ゼミ

08 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論する講座です。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、様々なものの見方や考え方に出会うことができます。

2023年6月～2024年1月
原則として隔週火曜日 10:30～12:30

●全15回　●開催形式：対面（PARC自由学校教室）またはオンライン（zoom）の選択制　●定員：20名　●受講料：42,000円〈U30割：5,000円〉

※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。

こんな人におすすめ！
●日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
●NGOや独立系メディア、批評家の視点や分析を知りたい方

講師　浦田　誠　国際運輸労連（ITF）政策部長

ロンドンに22年間在住し、ITF本部で内陸運輸部長を務める。ILOなどでITFを代表。2020年よりITF東京事務所で現職として、ライドシェア問題に取り組む。アムネスティ英国支部「結成30周年と30人の労働組合人権活動家賞」受賞（2009年）。国際労働運動につき、寄稿多数。

講師　廣内かおり　アフリカ日本協議会 事務局長

市民団体のメンバーとして遺伝子組み換え問題やTPP問題等の翻訳、通訳に協力しながら、フリーランスとしても翻訳を行う。共訳書にリチャード・J・サミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』英治出版2016など。

講師　田中　滋　PARC事務局長・理事

米国コーネル大学大学院在学時からACORN（Association of Community Organizations for Reform Now）をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク（RIPESS）やアジア太平洋調査ネットワーク（APRN）など国際的なNGOネットワークの理事も担う。

※3人の講師が分担してそれぞれの回を担当します。

日程

第1回：2023/6/20	第4回：8/1	第7回：9/19	第10回：10/31	第13回：12/12
第2回：7/4	第5回：8/22	第8回：10/3	第11回：11/14	第14回：2024/1/16
第3回：7/18	第6回：9/5	第9回：10/17	第12回：11/28	第15回：1/30

対面連続講座 09

＼共同の学びの場を体験し、あなたもファシリテーターに！／

映像とワークショップで考えるサステナビリティ
―スマホ・水・プラごみ・有機農業

PARCの映像作品と、ワークショップ教材の体験を組み合わせて学びを深める1 day×4日間のプログラムです。①知る→②ゲストと深めて考える→③今後に向けて、という流れで、1日に2時間のセッションを3回行います。身近なテーマについて映像で学び、ワークショップ教材を活用して語り合うなかで、問題を自分事とし、課題に対しどのようなアクションにつなげることができるのか、参加者みんなで考え合いましょう。さらに、地域グループや学校などで自ら伝えていく場合のプログラムの組み立て、気づきを促すポイントなど、ファシリテーションについても意見交換をおこないます。共同の学びの場をどのようにつくっていけるのか、連続ワークショップを通して考えていきましょう。

当日は、映像作品にかかわるゲスト講師をお招きし、テーマに関する最新情報を聞くこともできます。

2023年6月～9月
日曜日10:00～17:20

●全4回　●定員:20名　●開催形式:対面(PARC自由学校教室ほか)
●受講料:33,000円(有機食材をつかった昼食付き)
※出かける回は現地への交通費・実費などが別途かかります
※この講座のみ申し込み締切が5/21(日)となります

協力:開発教育協会(DEAR)

ファシリテーター

花崎　晶
PARC理事／
八王子市民の学校
〈まなび・つなぐ広場〉

栗本知子
PARC自由学校／
あおぞら財団特別研究員

各回の流れ(予定)　※映像作品、ワークショップ教材(DEAR発行)の対象は中学生以上です。

セッション①　知る　10:00～12:00
アイスブレイク、ワークショップ教材体験、映像作品視聴、意見交換
〈ランチ交流:有機食材をつかったお弁当をご用意〉

セッション②　ゲストと深めて考える　13:00～15:00
映像作品にかかわるゲスト講師から最新情報を交えたお話、質疑・意見交流
〈ティーブレイク〉

セッション③　今後に向けて考える　15:20～17:20
さらに考えたい課題、学びを今後にどうつなげるか(授業で取り上げる際の工夫、参加者の議論を深める問いかけ等、アイデアを寄せ合う)。1日のふりかえり。

6/4(日)　テーマ　スマートフォン

【活用教材】
映像作品『スマホの真実―紛争鉱物と環境破壊のつながり』PARC 2016／35分
ワークショップ教材『スマホから考える世界・わたし・SDGs』DEAR 2018

私たちの暮らしになくてはならないものになりつつあるスマートフォンや小型電子機器。それらをつくるためには20種類以上の鉱物が必要とされています。そうした貴重な鉱物を採掘しているエクアドル、フィリピン、コンゴ民主共和国の採掘現場を訪れてみると、そこには目を見張るような環境破壊や鉱山利権を巡った紛争、もともとそこに住んでいた人びとの強制的な追い出しが目撃されました。スマートフォンの裏側に隠された、調達(あるいはサプライチェーン)の真実に光を当てます。

講師 **田中　滋**　PARC事務局長・理事

講師からのメッセージ:
私たちの身の回りのものにはたくさんの鉱物が使われていますが、多くの方の周りには鉱山はないことでしょう。いったいこれだけの鉱物を得るために世界では何が起きているのか？ 大手のテレビカメラが入ったことのない鉱山の現場情報をPARCの映像作品でお伝えします。

6/25(日)　テーマ プラスチックごみ

【活用教材】
映像作品『プラスチックごみ―日本のリサイクル幻想』PARC 2019／28分
ワークショップ教材『プラスチックごみ　開発教育アクティビティ集4』DEAR 2020

私たちは気づかないうちに食べものや水を通してプラスチックを口にしています。微細になり、さまざまなところにまで拡散してしまっているプラスチック。もはや地球上で逃れられる場所はほとんどないのではないかと疑われています。私たちは「便利」な暮らしのために一体何を解き放ってしまったのか？ プラスチック汚染の実情や人の生殖機能や免疫力にも影響を与えるプラスチック添加剤との関連も学び、私たちにできることを考えます。

ゲスト講師 **高田秀重**　東京農工大学農学部環境資源科学科

講師からのメッセージ：
プラスチックには有害化学物質が含まれており、リサイクルが難しい。リサイクルが難しいものを無理矢理リサイクルすれば手間もエネルギーもかかり、温暖化を進めてしまう。プラスチックの消費削減が必須です。

8/6(日)　テーマ 水

【活用教材】
映像作品『どうする？日本の水道―自治・人権・公共財としての水を』PARC 2019／41分
ワークショップ教材『日本と世界の水事情「水から広がる学び」アクティビティ20』DEAR 2014

「水道の水を飲むのは、なんだかかっこ悪い」。1990年代後半にペットボトルの水が売られるようになり、こうした意識が広まりました。98%の普及率と、世界有数の「飲める水道水」を誇る日本の水道。私たちの生活を支える日本の水道は今、多くの課題を抱え、政府は課題の解決策として水道事業の民営化を推奨しています。ところが世界では、水道再公営化を選ぶ自治体が増えているのです。果たして、私たちはどのような選択をすべきでしょうか？ 全国の水をめぐる自治体や市民の動き、専門家のお話や水道労働の現場の声から学び、私たちの「水の未来」を考えます。

ゲスト講師 **橋本淳司**
水ジャーナリスト／武蔵野大学客員教授

講師からのメッセージ：
老朽化が進むなか、人口減少、気候変動などどの課題にどう対応するか。将来のまちづくりと水インフラの未来について考えましょう。

特別
オープン講座

9/17(日)　テーマ 有機農業

【フィールドワーク】
埼玉県比企郡小川町NPOふうどを訪ねる

【活用教材】
映像作品『有機農業に生きる』PARC 2012／36分
参考教材『写真で学ぼう！「地球の食卓」』DEAR 2017

農薬や化学肥料への依存、放射能汚染、環境破壊･･･。農と食に大きな問題をかかえる現代社会をどう変え、どう生きればよいのでしょうか？ その答えのひとつに「有機農業」という生き方があります。経済成長優先の社会から離れ、農的暮らしへ―人と人をつなぎ、地域を元気にし、ほんとうの豊かさを実感できる有機農業の魅力を、映像作品から学ぶとともに、実践する現場・埼玉県小川町を訪れ、現地の取り組みから学びます。「有機農業」という生き方を選んだ方々の取り組みに学び、サステナビリティについて考えましょう。

協力：小川町移住サポートセンター

講師 **桑原　衛**
特定非営利活動法人小川町風土活用センター（NPOふうど）代表

講師からのメッセージ：
NPOふうどでは地域資源循環として生ごみ資源化事業を20年以上にわたり続けています。この取り組みをさらに広げていくにはどうしたら良いか、新鮮な切り口で考えていただきたいと思っています。

現場コーディネーター **八田さと子**　地域コーディネーター

現場コーディネーターからのメッセージ：
小川町の有機農業は人と人との有機的つながりが、資源循環も作り出しています。里山の恵みと素敵な人々に感謝する暮らし、その一端に触れていただければ幸いです。

※事前にオンラインにて、映像視聴とフィールドワークのオリエンテーションを行います（詳細は申込者にご連絡します）。
※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般参加者との合同受講となります。

対面連続講座

10 畑で実践!! 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

固定種・在来種の〈たねとり（自家採種）〉を基本とし、農薬・化学肥料や有機肥料に頼らず、自然や土の力を生かした無肥料自然栽培の基本を実習で学んでいく実践講座です。農作業が初めての方でも、実際に作業を行いながら講座を進めていきますので無理なく続けられます。

この道20年のベテラン講師の講習は家庭菜園を長く続けている方にも好評！畑に通い、野菜を育てながら、種まき、育苗、植付、間引き、収穫、母本選抜、種とり（脱粒）、芽かき、摘心、剪定、移植、など一通りの作業を実践で身につけていきましょう。前の年に、同じ畑から採取した種を中心に種を蒔き、野菜を育てていきます。季節ごとの収穫もお楽しみの一つ。間伐材でプランターを作り、自宅でも自然栽培にチャレンジしていきます。〈たねまき〉から〈たねとり〉まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめてみませんか？

2023/3/16（木）19:00-21:00　オリエンテーション

●畑での実践講習（予定）

2023/3/19	5/21	7/16	9/17	11/19	2024/1/14
4/2	6/4	8/6	10/1	12/3	1/21
4/16	6/18	8/20	10/15	12/17	
5/7	7/2	9/3	11/5		

●間伐材プランターづくり　2/4、2/11どちらか1日

2023年3月～2024年2月
原則として毎月第1・第3日曜日 9:00～12:00（予定）

●全24回　●定員：25名　●菜園の場所：H.S.S圃場 埼玉県富士見市（東武東上線 柳瀬川駅より徒歩15分程度）
●受講料：66,000円（指導料、農具・資材使用料、プランター代、保険料込）
●企画運営協力：H-seed to seed（HSS）

講師 **関野幸生**

無肥料自然栽培を始めて19年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行なう。『固定種野菜の種と育て方』を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。

2024/2/18（日）14:00-16:00　最終講習・ふりかえり

※日程、内容は天候等の状況に合わせて変更することがあります。ご了承ください。

満員御礼！キャンセル待ちのみ受付中。来年度の講座は2023年12月ごろから募集を開始する予定です。

対面連続講座

11 ビオダンサ―脈動と循環の中で

ビオダンサ（Biodanza=いのちのダンス）は、南米チリの教育者、詩人、人類学者、心理学者のロランド・トーロが、人間の潜在力の回復を願って編みだし、世界各地で親しまれているダンス・ワークです。

ダンスといっても、クラスで体験するのはシンプルな動きが中心です。いろんな音楽に乗って、歩いたり、軽く弾んでみたり、ゆったり呼吸したり、漂ったり。あるときはひとりで、あるときはペアやグループで、正解も不正解もなく、まずは、動き出す身体の感触そのものを味わっていきます。音楽・身体の動き・グループが織りなす様々な瞬間を行き来しながら、創り出すと同時に創られる存在としての私たちの底力に出会っていきましょう。

講師 **内田佳子**　国際ビオダンサ連盟公認ファシリテーター

ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。サンパウロでビオダンサに出会い、2000年に初めてビオダンサを日本に紹介。ファシリテーター資格、養成資格、子ども・思春期向けファシリテート資格を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークや勉強会に参加し、心と身体のつながりを探究し続けている。日本ソマティック心理学協会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。

●参考ウェブサイト：日本ビオダンサファシリテーター協会
https://www.biodanza.jp/
●ラジオ配信：Stand FM「いのちのダンス放送局」
https://stand.fm/channels/621a4bf062fdf0d800d75458

2023年7月～12月　原則隔週木曜日19:00-21:30 ※内容によって終了時間が前後する場合があります

●全13回　●定員：14名　●開催形式：対面（千代田区内（予定）ほか）　●受講料：55,000円　※日帰りリトリートは現地への交通費・食費・実費などが別途かかります

7/6　《はじめの一歩～「踊る」って？》
ビオダンサでは、そもそも踊ることをどのようにとらえているのでしょうか。創始者ロランド・トーロの言葉と着想から紐解きつつ、さっそく実際に動いていきます。

7/20　《遊ぶ・弾む》
ゲーム的な枠組みの中で、音楽に乗って、一瞬一秒、かけあいながら、全身で何かをつかむ感触を取り戻していきます。

7/29（土）《日帰りリトリート》
郊外に会場を移して、途中１回の休憩をはさんで2つのセッションを行ないます。よりゆるやかな時の流れに身を置いて、じっくり、自分自身と、グループのメンバーと、まわりの世界とのつながりを踊っていきます。

8/3　《内なる四元素を踊る～①地》
古くから、万物を構成する原初的な要素としてとらえられてきた「地」「空気」「火」「水」の四元素。ビオダンサでは、内なる潜在力としての四元素を、動きのなかで再発見していきます。この回は、いのちを養い、支え、受けとめる「地」の要素を踊ります。

8/17　《心地よさを味わう》
多忙な日々の中では、つい身体の感覚を封印して、えいや！で物事をこなす局面もありますが、それが慢性化すると、身体の声を聴きにくくなることも。心地よさ、しっくりくるペースやさじ加減を、丁寧にすくいあげながら、動きのよろこびを発見していきます。

8/31　《内なる四元素を踊る～②水》
自在に形を変え、流動し、多種多様なものを含んで溶かし込んでいく水。内なる水のしなやかさを、自分自身とのつながり、他者とのつながりの中で呼び起こしていきます。

9/14　《関わる》
自分とは異質な他者と関わることにはリスクもありますが、いのちには、関わり、つながることで永らえてきた側面もあります。与えあい、受け取りあうプロセスがもたらしてくれる新生の可能性に触れていきます。

9/28　《ゆらぐ・浮かぶ》
未知の状況を渡っていくときに頼りになる流動性。小刻みなステップとゆったりしたステップ、どっしり感と軽やかさ、遠心的な動きと求心的な動きなど、多様な可能性の波間を行き来していきます。

10/12　《内なる四元素を踊る～③空気》
目の前の現実へのとらわれから私たちを解き放ち、創意に満ちた視点や行動へといざなってくれる空気の要素。内なる軽やかさと上昇の力に乗って、新たなる空間に躍り出ていきます。

10/26　《Untitled》
ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターがテーマを選定してクラスを行ないます。

11/9　《内なる四元素を踊る～④火》
激しさとともに周辺を一瞬にして変えていく火。しっかりしたトーンで内から外へと広がりゆく動きを介して、私たちを行動へと駆り立てるエネルギーや生き生きした表現の力に触れていきます。

11/23　《Untitled》
ここまでのグループの歩みをふまえて、ファシリテーターがテーマを選定してクラスを行ないます。

12/7　《フィナーレ》
分かち合ったダンスの日々と、それぞれにとっての「踊る」と「生きる」を振り返り、今期の踊り納めをしていきます。

対面連続講座

12 表現することは生きること

今を生きる新しい視点が見え、ともに生きるエネルギーが湧いてくる講座です。

色々な意味で便利になった現代社会。しかし現代ほど人間が分断され、孤独を強いられる時代はないのではないでしょうか。アートは現代社会を反映し象徴するもの。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に忘れられている大切なものが詰まっています。個人の思想や社会への問題提起から、スパッと割り切れない曖昧な感覚、戸惑い、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、〈感じる〉ことを通じて共有していきます。

この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈表現すること〉〈感じること〉を通して他者と共有・「ダイアローグ」し、時には個人を深掘りしながら表現の原点について、そして社会や自分自身について、より深く理解していきます。

アート・表現することを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にこそおすすめ。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった視点や新しい自分自身を発見することができるでしょう。

2023年6月～12月
木曜日19:00～21:30ほか

●全12回　●定員：14名　●開催形式：対面（PARC自由学校教室ほか）
●受講料：48,000円（材料費・画材費込）

※出かける回は現地への交通費・食費・展覧会費などが別途かかります

講師 **中津川浩章**　画家/アートディレクター/フリーキュレーター

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会を開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設「工房集」や「アール・ド・ヴィーヴル」のアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通したコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、全国各地で活動。

6/15（木）19:00～21:30
リレーして絵を描く：「対話しながら一枚の絵を見てみよう」

6/29（木）19:00～21:30
「印象派とV・ゴッホとヨーロッパの近代」〈点描体験〉

7/15（土）午後　【東京都美術館を訪ねる】
展覧会を見に行きその印象をダイアローグ

7/27（木）19:00～21:30
プレゼンテーションと講評　その1

8/24（木）午後　【神奈川県小田原市を訪ねる】
小田原市のアート施設「アール・ド・ヴィーヴル」を訪ねる

9/23（土）～9/24（日）　【東京近郊で１泊２日合宿】
「自画像は語る」〈様々な視点から自画像を描く〉

10/5（木）19:00～21:30
「自分って何だろう？」
アートセラピー〈写真でつくるマンダラ・コラージュ〉

10/19（木）19:00～21:30
「夢・表現・シュルレアリスム、
作家の田口ランディさんを交えて」〈夢ドローイング〉

ゲスト講師 **田口ランディ**　小説家

11/2（木）19:00～21:30
「イメージと記憶の交差点」〈自分だけの写真集制作〉

11/16（木）19:00～21:30
みんなでライブペインティング

11/30（木）19:00～21:30
「表現の本質って？」
アールブリュットとアートセラピー〈自由な素材で表現〉

12/14（木）19:00～21:30
プレゼンテーションと講評　その2

国内エクスポージャーツアー

あるがままの自分が認められる場所「やまなみ工房」を訪問する旅

滋賀県甲賀市にあるアートセンター＆福祉施設「やまなみ工房」は、単なる障がい者が通い、過ごす施設ではなく、誰もがあるがままの自分として認められる場所。それ故につくられるアート作品があり、それ故にたくさんの物語がある場所です。自由な気持ちになって、〈いのち〉と向き合い、共生社会の在り方を一緒に感じ取りに行きましょう。

案内人 **中津川浩章**
画家/アートディレクター/フリーキュレーター

2023年10月28日（土）～29日（日）　1泊2日

●集合：10/28　11:30頃　JR草津線　甲南駅改札口付近
●解散：10/29　お昼頃　ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA付近
●訪問先（予定）：やまなみ工房、ボーダレス・アート・ミュージアム NO-MA、ラ コリーナ近江八幡
●参加費：32,000円（プログラム費、宿泊費、28日昼食費、夕食・交流会費、29日朝食費含む）　※集合場所まで及び解散後の交通費は各自でご負担ください

※最少催行人数：8名

「やまなみ工房」とは

知的や精神、身体に障害を持つ約90名の利用者と約20名のスタッフがともに過ごすアートセンター＆福祉施設。一人ひとりの興味や関心を見つめ、活動を行うことで、結果として人々の心を打つ多数のアート作品を生み出している。粘土や絵画に取り組む「アトリエころぽっくる」、刺繍や絵画に取り組む「こっとん」、健康のため散歩や運動に取り組みながら表現活動に取り組む「ぷれんだむ」、メンテナンス作業を中心に取り組む「もくもく」、古紙回収をはじめ様々な活動に取り組む「たゆたゆ」、CAFEを営業をする「hughug」の6つのグループに分かれて活動する。これまでにもNHK教育テレビジョンの番組『バリバラ～障害者情報バラエティー～』内でも取り上げられるほかパリ、ニューヨーク等へも作品を多数送り出している。

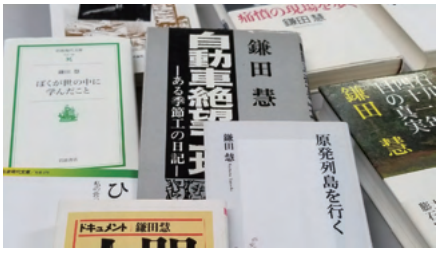
参考ウェブサイト：http://a-yamanami.jp/

対面連続講座

13 鎌田慧・ルポルタージュの現場から

現代社会の矛盾と痛憤を、現場の目線で描き続けてきたルポライター・鎌田慧さん。労働問題・公害・三里塚闘争・原発列島・暗黒裁判など、大企業や国家によって虐げられた人びとの声を50年以上にわたり取材し、いまも現役のライターとして現場に立ち続けています。その著作の数々は、高度成長から今日にいたる日本の歩みを「豊かさ」の影の側から記録してきた貴重な証言です。その豊饒なルポルタージュの世界と人生を、2回のフィールドワークを交えて本人とともにたどります。

案内人・聞き手を務めるのはジャーナリストの永田浩三さん。毎回、鎌田さんの著作を実際にひもときながら、日本社会の消された声、声なき声を浮かび上がらせます。



2023年6月～10月
火曜日19:00～21:00あるいは土曜・日曜

●全6回　●定員：20名　●開催形式：対面（千代田区内（予定）ほか）
●受講料：34,000円
※出かける回は現地への交通費・食費・実費などが別途かかります

講師
鎌田　慧
ルポライター

『自動車絶望工場』を世に著したとき、「身分を隠した取材はフェアでない」と言われました。しかし、企業や国家の言い分でなく、自身が体験したことを書いてこそジャーナリズムです。公害の現場では住民とともに企業を追及しました。直接人びとが声を上げる民主主義の精神がいま失われていないか、振り返って考えたいと思います。

1938年青森県生まれ。新聞記者、雑誌編集者を経て、1968年よりフリーのルポライター。著書は150冊を超える。1991年、『六ヶ所村の記録―核燃料サイクル基地の素顔』で毎日出版文化賞を受賞。2017年には「朝日新聞」青森版の聞き書き連載をもとに『声なき人々の戦後史』（聞き手：出河雅彦、上下巻、藤原書店）が刊行された。
●主著：『新装増補版 自動車絶望工場』講談社文庫 2011／『狭山事件の真実』岩波現代文庫 2010

コーディネーター
永田浩三
武蔵大学 教授／ジャーナリスト

わたしはテレビのドキュメンタリーの世界に身を置いてきました。日本のジャーナリズムの世界を引っ張って来られた鎌田慧さんに、物書きとしての事始めから今日まで、フィールドワークを含め直接お話していただくことは、なんて幸せなことでしょう。この貴重な機会にしっかり学びたいと思います。

1954年大阪府生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。ドキュメンタリー映画『闇に消されてなるものか』『命かじり』など。
●主著：『ヒロシマを伝える 詩画人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016／『奄美の奇跡』WAVE出版 2015／現在『原爆と俳句』（仮題）を執筆中

6/20（火）19:00～21:00
ルポルタージュを書きたい

弘前高校を出たあと板橋の町工場に就職。早大を卒業した後、鉄鋼新聞などを経て、ルポライターを志す。写真とともに記事にしたのが、都電の人員整理問題だった。

7/4（火）19:00～21:00
隠された公害

対馬にもイタイイタイ病がある。しかし地域のボス支配はすさまじく潜行取材が続いた。証拠をつかんだのは、一通の内部告発の手紙であった。

7/18（火）19:00～21:00
自動車絶望工場

トヨタの季節工として、鎌田さんが非人間的なベルトコンベアの前で働き始めたのは1972年。今日までトヨタの取材は続く。日本初の本格潜入ルポは世界に大きな衝撃を与えたが、選考委員に不評で、大宅賞には至らず。

9/10（日）【フィールドワーク：千葉県成田市】
三里塚のいまを知る

開拓した農地をとりあげられる。農民たちは国策の犠牲者であった。三里塚の人びとは、空港に取り囲まれながらもその土地で暮らしを営むことで抵抗を続けてきた。

9/26（火）19:00～21:00
原発列島を行く

核燃料サイクル基地は、放射性生ごみの捨て場となるのだろうか。六ケ所村は、むつ小川原開発の亡霊である。福島第一原発の事故以前から、原発は地域をどのように破壊してきたのか。

10/7（土）【フィールドワーク：埼玉県狭山市】
狭山事件を現場から考える

学校でノートに字を書いたことがなかった石川一雄さんに、脅迫状を書く力はなかった。石川さんが被った暗黒裁判とはなにか。正義は回復されるのか。現地で石川さんとともに考える。

銀行の社会性を、まるっと格付け
FairFinanceGuide Japan

市民調査で世界のしくみを紐解こう

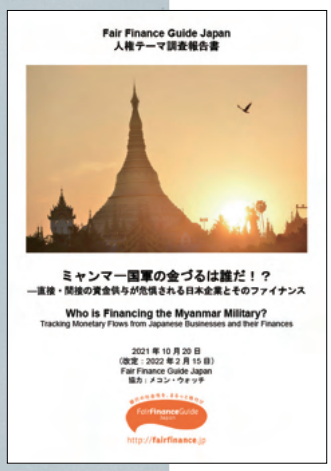
あなたが銀行に預けたお金はどこに流れていますか？

PARCでは日本のNGOのネットワーク組織であるFair Finance Guide Japanの一員として市民調査を通じて、銀行に預けた私たちのお金の行方を調査しています。

報告書「ミャンマー国軍の金づるは誰だ!?」ではミャンマー国軍と関与が深いとされる企業を利することへとつながっている開発プロジェクトや日本の飲料メーカー「キリン」が国軍と密接な関係にあることを明らかにし、そこには日本の銀行を通じた投融資や公的資金の流れがあることを突き止めました。

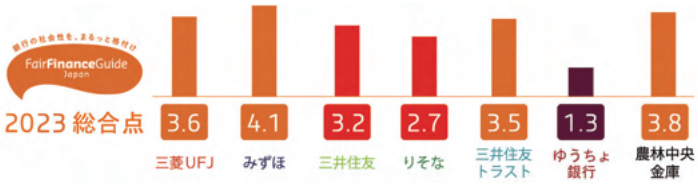
また、国際自然保護連合（IUCN）が勧告を出す中でも日本政府と民間企業は海の底の鉱物へと手を伸ばそうとしています。ひとたび破壊されてしまえば再生には100万年以上かかるといわれる深海生態系へと欲望の食指を動かしている企業群には日本の企業も含まれます。そんな世界の海を破壊するお金の流れは報告書「海よりも深い欲望」に示されています。

どちらもFair Finance Guide Japanのウェブサイトで無料でご覧いただけるほか、動画資料「メガバンクの闇を暴く」もご視聴いただけます。



詳しくは http://fairfinance.jp へ

大手金融機関の環境・社会配慮格付けもしています！
アナタの銀行は何点？



※この活動はスウェーデン国際協力庁（Sida）の助成を受けています。

いつでも
好きな時間に、
自分のペースで

PARC オンデマンド配信シリーズ

新たに撮影・収録されたオリジナル映像番組や、
過去の人気講義のアーカイブなど厳選コンテンツをオンデマンド配信で視聴!!

オンデマンド配信とは、あらかじめ用意された動画をインターネットを通じて好きな時間に見ることができるサービスです。ご利用にはインターネット接続が必要です。

写真家・大石芳野　顔と風景に刻まれた記憶と歴史

およそ半世紀にわたって世界と日本を取材し、戦争の傷痕、人間の再生について見つめ続けてきたドキュメンタリー写真家・大石芳野さん。写真家としての初期の転機は、森の精霊とともに生きるパプアニューギニアの人びととの出会いでした。以来、様々な歴史の悲劇に傷ついた人たちの心の今を写真と言葉で伝えようとしてきました。大石さんの写真の中の人びとの顔や風景には、消え去ることのない時間が記録されています。カンボジア、ヒロシマ・ナガサキ、そして福島。膨大な写真をもとに、現場で大石さんは何を見つめ、何を感じたのかをご自宅の書斎から語っていただく4回シリーズ。聞き手はジャーナリストの永田浩三さん。

2023年7月より配信開始

●全4回
●料金　※5/31までにシリーズ視聴事前申し込みで2000円もお得！
【シリーズ視聴】　~~6,000円~~ → 4,000円（事前申込限定！）
【単発視聴】　1,500円

※2023年7月第1週より各週ごとに順次、事前収録した映像（各回 約90分を予定）の視聴リンクを申込者の方へお送りします。配信された動画は期間中（各配信開始日から2024年3月31日まで）、回数の制限なくご覧いただけます。
※シリーズ視聴事前申し込みの割引適用期間は2023年5月31日までとなります。

大石芳野　写真家

東京都出身。日本大学芸術学部写真学科卒業。元東京工芸大学芸術学部教授（現在は客員教授）。ドキュメンタリー写真家として、パプアニューギニア、カンボジア、ベトナム、沖縄、アウシュビッツ、コソボ、アフガニスタンなど世界各地を取材。2001年に『ベトナム凜と』で土門拳賞受賞。2004年より世界平和アピール七人委員会委員。

永田浩三　武蔵大学教授／ジャーナリスト

1954年大阪府生まれ。1977年 NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。ドキュメンタリー映画『闇に消されてなるものか』『命かじり』など。

第1回

パプア人　そこで見つめた生と死

1970年代、通算300日にわたって単身現地に入り、石器時代さながらの暮らしを共にした。女性ならではの視線で記録した生と死の記録は世界に衝撃を与えた。別れ際のみんなでの笑顔の集合写真は、大石さんという記録者のスタイルを鮮やかに物語る。

（写真:1975年 パプアニューギニア・高地『愛しのニューギニア』より）

第2回

カンボジア　無告の民

ポル・ポト政権下のカンボジア。全土が「強制収容所」と化し、強制労働と虐殺の恐怖に包まれた。日本の主要メディアはその事実を否定するなか、大石さんはその事実を明らかにした。温和で慈悲深い人々の心にどんな傷をもたらしたのか。抑えてもあふれ出すものとは何か。

（写真:1980年 カンボジア『わたしの心のレンズ 現場の記憶を紡ぐ』より）

第3回

ヒロシマ・ナガサキ　女性たちの肖像

広島や長崎の原爆による被害。生き延びた人々にとっては決して過去ではない。ふだんは見えないその経験が見える瞬間がある。晩年、半身まひとなり、短歌の世界を取り戻した鶴見和子さんとの出会いについても語る。

（写真:1994年 広島市『わたしの心のレンズ 現場の記憶を紡ぐ』より）

第4回

FUKUSHIMA　土と生きる、永六輔の思い出

12年前の福島第1原発事故は、土とともに生きる人々の生活を根こそぎ破壊した。40年に及ぶ作家・永六輔さんとの交流。その最後に話をしたのは、事故の傷が生々しい福島についてであった。永六輔の貴重な写真も併せて紹介する。

（写真:2012年 福島県飯館村 佐藤義明自宅『福島 FUKUSHIMA 土と生きる』より）

自由学校セレクト・アーカイブズ

PARC自由学校の過去講座から厳選された録画記録（アーカイブズ）
Vimeo オンデマンドでいますぐワンクリックで視聴可能！
スマホやタブレットにダウンロードして好きな場所でも聴ける！

vimeo ON DEMAND

セレクト・アーカイブズ　第１弾　2023年4月より配信開始！

問い続けるものたち —アジアと日本の歴史から描く未来（2022年度）

設立50周年を迎えるアジア太平洋資料センター（PARC）。民衆の連帯を通じたオルタナティブな社会の実現という理念は、今も色褪せていない。その活動を担ってきた先輩方を講師に迎え、運動の“これまで”と“これから”を語り合ったオーラル・ヒストリーの連続講義（講師：武藤一羊、ダグラス・ラミス、内海愛子ほか）。

各回　72時間レンタル　600円

樋口健二・売れない写真家が見つめた日本の闇（2021年度）

四日市公害、原発被ばく労働、毒ガス製造の過去など、高度経済成長する日本社会の暗部を、苦しむ人びとの目線に立って半世紀以上にわたって記録し続けてきた報道写真家・樋口健二さん。その樋口さんが貴重な写真・資料とともにご自宅の書斎から自伝的戦後史を語った全8回シリーズ（聞き手：永田浩三）。

各回　72時間レンタル　600円

※過去の講義から受講生との質疑応答など一部をカットした録画記録を配信します。
※セレクト・アーカイブズのご利用には動画サイト「Vimeo」（ヴィメオ）へのアカウント登録（無料）が必要です。お手元のパソコンなどのウェブ・ブラウザで視聴いただけるほか、スマートフォンやタブレットにVimeo専用アプリ（無料）をインストールすると、購入した動画を保存して外出先でオフライン視聴することもできます。詳しくは、PARC自由学校ウェブサイト（https://www.parcfs.org）をご覧ください。

PARC VIDEO & DVD

アジア太平洋資料センター（PARC）では、国内外の市民団体や研究者とのネットワークを活かして、エビやバナナ、パーム油、スマホ、プラスチックなど私たちの身近な題材を切り口に、50本以上の作品を制作してきました。作品は、全国の高校・大学の授業や自主上映会・学習会で活用されています。

※各作品の詳細・予告編や購入方法はPARCウェブサイト（http://www.parc-jp.org）をご覧ください。DVDでの販売のほか、一部の作品はVimeoでもレンタル視聴いただけます。

最新作紹介

新型コロナが映す いのちの格差 —公正な医療アクセスを求める世界の市民社会

- 2023年／43分
- DVD 本体2,000円＋税（図書館価格：15,000円＋税）
- オンライン視聴 72時間レンタル 600円～

なぜ「いのちの格差」が生じてしまうのか？ すでに存在する貧困や格差の上に起こったコロナ禍が映し出した、ワクチンや医薬品にかかる知的財産権の問題点とは？ 世界の市民社会や医療関係者の運動から公正な医療アクセスの実現を考える。

希望の給食 —食と農がつむぐ自治と民主主義

- 2022年／42分
- DVD 本体4,500円＋税（図書館価格：15,000円＋税）
- オンライン視聴 72時間レンタル 600円～

学校給食はどうあるべきか？ 給食をめぐる選択は、食と農のつながり、持続可能な農業の推進、公共サービスのあり方、食への権利の保障などの課題に関わり、地域全体のあり方を左右する。日本と韓国の事例から給食のあり方を考える。

全国の自由学校ネットワーク

自由学校は学びの草の根ネットワークです。
全国各地でそれぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講されています。
また「自由学校」と名乗ることがなくても、
地域で市民のための学びの場を提供する取り組みが全国に多数あります。

●さっぽろ自由学校「遊」

北海道・札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。今年度も、先住民族をめぐるテーマや地域における開発・環境問題を取り上げる講座など、多彩な講座や学習会を開講予定です。オンラインで参加可能な講座も多数準備していますので、北海道外の方もお気軽にご参加ください。詳しい講座内容やお申込についてはウェブサイトを参照ください。

〒060-0061
札幌市中央区南1条西5丁目愛生舘ビル5階 501
TEL:011-252-6752　FAX:011-252-6751
syu@sapporoyu.org
http://sapporoyu.org/
https://www.facebook.com/sapporoyu

●八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

東京の西の端、八王子市を中心に市民のゆるやかなつながりの中で生まれた学習グループ。2011年の東日本大震災／原発事故後の取り組みからスタートし、さまざまなテーマの講座やワークショップ、上映会などを不定期に開催しています。2020年のコロナ禍以降、講座は休眠に近い状態でしたが、そのあいだもPARCICやAPLAなどの民衆交易品や地域産品などを紹介・販売する「くらし・つなぐストア」の活動は続け、近隣のカフェやお店に規格外バランゴンバナナを使っていただくなど、持続可能な地域や暮らしをめざして身の丈でできることをしています。キャッチフレーズは、「未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」。上映会など今年はすでに再始動中。最近のイベントなどはfacebookでご覧ください。

〒192-0082
八王子市東町３－４アミダステーション気付
manabi.tsunagu@gmail.com
http://www.gakkou.org
https://www.facebook.com/843kozapage
https://www.facebook.com/kurashitsunagu

● PP21 ふくおか自由学校

PP21の国際民衆行事から生まれて、今年で35年目になります。自分たちの暮らしと他者がつながっているという視点から日本や世界の現実を知り、とらえかえす場です。つくられた壁に穴を開けようと、「自己責任」ではない、人と人とがつながる社会について、講座やフィールドワーク、ライブやスタディーツアーを通じて考えています。講座は6月から開講予定です。詳しくはウェブページをご覧ください。

〒815-0083
福岡市南区高宮4-10-41 パウリスタ工房気付
TEL:090-4357-7596、080-6406-9251
ohyamayairochou@yahoo.co.jp
http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/

● NPO 法人泉京・垂井

NPO法人泉京・垂井は、垂井町に暮らす住民誰もが、垂井町のまちづくりに自ら参画し、行政、事業者・企業などと協働してまちづくりに関する事業を行い、『より幸福度の高いまち・垂井』を実現することを目指しています。

〒503-2124
岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地の1
TEL：0584-23-3010　FAX：0584-84-8767
info@sento-tarui.org
https://sento-tarui.jimdofree.com/

あどぼの学校

京都、名古屋、岐阜のNPO/NGO関係者と協働し、あどぼの学校運営委員会を組織し、アドボカシーの担い手育成講座である「あどぼの学校」の実施、ならびに各地域のアドボカシー研究・分析を行っています。先人たちのアドボカシーの系譜を記録する「あどぼの研究会」を実施し、各地のアドボカシーの実践者をネットワークする「あどぼのプラットフォーム」の運営などに取り組んでいます。

研修プログラム：国際協力・地域づくりの現場で必須「地域のお作法」発見方法

「地域のお作法」とは、地域独自の決まりのことです。本プログラムでは「地域のお作法」とは何かを理解し、習得方法を知ることで、地域コミュニティ理解を深め、国内外を問わず住民主体の地域開発・まちづくりを円滑に進めるための根幹を学びます。詳細はウェブページをご覧ください。

①オンライン講義　6月10日、7月8日、22日、8月5日、19日
②福岡県矢部川流域フィールドワーク　9月23日
③岐阜県揖斐川流域現場実習　10月7日～9日
受講料　無料（交通費、宿泊費などは別途必要）

お申し込み方法について

1. ウェブサイトからお申し込み、またはメール・電話・FAXでお問い合わせください。

申し込み締切：**2023年5月31日（水）**

※締切後のお申し込みおよび途中参加についてはお問い合わせください。

2. お申し込み後、お支払いのご案内をメールまたは郵送にてお送りしますので、郵便局・銀行にてご入金手続きをお願いします。ウェブサイトからはクレジット決済も可能です。受講料のお支払いをもってお申し込み手続き完了となります。定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

※領収証の発行をご希望の方は、PARC事務局までご連絡ください。

3. お申し込み・ご入金いただいた皆さまには、開講日の2週間前になりましたら、講座の詳細についてご連絡差し上げます。

入学金・受講料について

◎自由学校連続講座を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。（入学登録完了後は、以降の年度での支払いは不要です。）

◎お支払いいただいた入学金・受講料は、講座開講中止の場合を除き払い戻しできません。ご了承ください。

◎消費税はすべて内税です。

◎入学金・受講料とも原則一括でお支払いください。分割入金をご希望の方は、事務局までご相談ください。

割引制度について

◎若者応援！〈U25割〉／〈U30割〉：25歳以下の方は講座番号1～7の講座を、30歳以下の方は講座番号8の講座を、特別割引受講料5,000円（入学金免除）にて受講いただけます。ご希望の方はウェブサイトの専用ページからお申し込みいただくか、PARC事務局までお問い合わせください。

講座の開講形式について

オンライン講座、対面講座、両者を組み合わせたハイブリッド講座がございます。開講形式の詳細は各講座ページをご確認ください。なお、オンライン講座はzoomを利用する予定です。

連続講座受講生が利用できるサービスについて

◎講座の録画（または録音）データ・配布資料のダウンロード

ご自身が受講されている連続講座については、講座終了後に講義内容の録画（または録音）データ・配布資料を原則インターネットでご覧いただけます。復習や欠席の際にぜひご活用ください。ただし、講師の事情等により共有できない場合や、出かける回や作業が中心の講座など録画（または録音）されない講座もあります。また、質疑応答等は省略する場合があります。予めご了承ください。

◎他の連続講座の単発受講（越境受講）

通常、連続講座は全ての回数を通しで受講いただくことが前提ですが、同年度に連続講座を一講座でも受講いただいている方は、「越境受講料」をお支払いいただくことで、他の連続講座の単発受講（越境受講）が可能になります。越境受講が可能な講座の詳細や越境受講料についてはお問い合わせください。

◎オンライン受講のサポート

オンライン参加にあたり、接続等に不安のある方はPARC事務局までご相談ください。接続マニュアルの送付など、ご参加のためのサポートをいたします。また、機材やインターネット環境に不安のある方は、PARC事務局にてオンライン講座にご参加いただくことも可能です。

PARC自由学校での感染症対策について

●対面開催の講座については、感染症の状況により、講座日程の延期や中止、あるいはプログラムの一部変更の可能性がございます。講座中止の場合には、中止回数分に応じて受講料を返金いたします。開講日2週間前になりましたら、開催可否について判断し、お申し込みいただいた皆さまにお知らせいたします。
●講座開催時の感染症の状況に応じて、参加者間の間隔確保や換気、消毒、飛沫拡散防止など必要な対策を行います。またご参加の皆様にはマスクの着用や消毒、検温などご協力をお願いする場合がございます。●感染予防のため、新型コロナウイルス感染症の陽性者や濃厚接触者になった場合や、発熱や咳などの症状がある場合、体調不良の場合にはご参加をご遠慮ください。

お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC）
PARC 自由学校

〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町 1-7-11　東洋ビル 3F
TEL: 03-5209-3455 FAX: 03-5209-3453 Email: office@parc-jp.org

郵便振替 00100-2-606697 PARC 自由学校
ゆうちょ銀行 〇一九支店（019）当座口座 0606697 PARC自由学校

PARC とは？

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター（PARC：Pacific Asia Resource Center）は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をめざして様々な活動に取り組んでいます。

南の人びとの状況や国際的な課題についての情報収集や調査研究活動、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、PARC 自由学校や開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通した情報発信を行っています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくることと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。PARC は人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをめざしています。

PARC 自由学校とは？

PARC 自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場です。1982年の開講以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知る講座、世界経済の実態や開発を考える講座、環境や暮らしのあり方を考える講座など、毎年約20講座を開講しています。

私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。より豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、学びあうのが自由学校です。

新しい視点や新しい知識に出会うと、発想が変わります。すると、これまで思っていたのとは違う世界や社会が見えてくるかもしれません。そして、今のようではない社会はどんな社会なのか、どうしたら実現できるのかを考えたくなったり、もしかしたら動き出したくなるかもしれません。自由学校はそのきっかけとなる場でありたいと考えています。

より詳しい情報については、PARC 自由学校ウェブサイトをご覧ください。
http://www.parcfs.org/

PARC 自由学校 検索

こちらでも情報発信中！ @parc_jp